

平成29年度第3回小牧市障害者自立支援協議会会議録

- 1 開催日時 平成30年2月19日(月) 午後2時～3時30分
- 2 開催場所 小牧市ふれあいセンター 3階大会議室
- 3 出席者(委員13名のうち、10名出席)
 - (会長) 相山女学園大学 准教授 手嶋 雅史
 - (副会長) 小牧市社会福祉協議会会長 稲垣 喜久治
 - (出席した委員) 小牧市身体障害者福祉協会会長 谷 幸男
 - 小牧市手をつなぐ育成会会長 石原 多加子
 - 民生委員・児童委員連絡協議会会長 吉田 友仁
 - 社会福祉法人大和社会福祉事業振興会
ハートランド小牧の杜施設長 清水 龍司
 - 社会福祉法人あいち清光会
サンフレンド施設長 川崎 純夫
 - 小牧市医師会代表 越後谷 雅代
 - 愛知県春日井保健所 課長補佐 角田 玉青
 - 愛知県立小牧特別支援学校校長 鵜野 裕志

 - (欠席した委員) 社会福祉法人アザレア福祉会
理事長 北澤 論
 - 小牧市健康福祉部長寿・障がい福祉課長 山本 格史
 - 春日井公共職業安定所
専門援助部門統括職業指導官 川島 さとみ

 - (オブザーバー) 尾張北部圏域地域アドバイザー 綱川 克宣

 - (事務局) 小牧市健康福祉部長寿・障がい福祉課
小牧市社会福祉協議会ふれあい総合相談支援センター

 - (同席) 就労支援連絡会代表 本庄授産所 伊藤 茂
 - 日中活動系連絡会代表
生活介護ぽぽらす 秋山 敏之
 - 相談支援事業所連絡会代表
サンビレッジ障害者生活支援センター 篠塚 ユカリ

こども連絡会代表

小牧市ふれあいの家 あさひ学園	御手洗 真由美
相談支援事業ハートランド小牧の杜	木戸 明子
サンフレンド障害者生活支援センター	中野 勝利
地域活動支援センター本庄プラザ	水谷 研司

(傍聴者) 1名

4 議事

- (1) 尾張北部圏域地域アドバイザーから情報提供
- (2) 相談支援事業の実績報告
- (3) 平成29年度事業計画実施表について

5 会議資料

次第

小牧市障害者自立支援協議会委員名簿

小牧市障害者自立支援協議会組織図

- | | |
|-------|---------------------|
| P 1～2 | 尾張北部圏域地域アドバイザー報告 |
| P 3～4 | 一般相談支援事業について |
| P 5 | 平成29年度就労支援連絡会実績報告 |
| P 6 | 平成29年度日中活動系連絡会実績報告 |
| P 7 | 平成29年度こども連絡会実績報告 |
| P 8 | 平成29年度相談支援連絡会実績報告 |
| P 9 | その他の取組 |
| P 10 | 平成29年度小牧市障害者自立支援協議会 |

6 議事内容

(事務局) 只今より、平成29年度第3回会小牧市障害者自立支援協議会を開催します。この会は公開とさせていただきます。議事録は情報公開コーナー及び小牧市のホームページに掲載させていただきます。本日の傍聴人は1名です。また、アザレア福祉会理事長北澤様と小牧市長寿・障がい福祉課長山本様は欠席の連絡をいただいています。資料は事前に送付しております。ここからは、手嶋会長に議事進行をお願いします。

(手嶋会長) 皆さんこんにちは。委員の任期は2年ということで、今日はその集大成となります。是非忌憚のないご意見ををお願いします。始めに尾張北部圏

域地域アドバイザー綱川さんから近況報告を含め、情報提供をお願いします。

(綱川アドバイザー) P 1 の資料をご覧ください。近隣圏域の地域自立支援協議会の紹介を中心に報告します。今後小牧市の活動においても参考になると思われる3点を報告します。1. 触法障害者への支援です。これは重要性が謳われている一方で支援の難しさを感じるケースがあることも事実です。触法障害者への支援をするための連携会議を定期的に行っている市町があります。構成メンバーは、相談支援事業所の他、検察、保護観察所、弁護士等で、年4回事例検討会を開催しています。触法障害者への支援は刑務所から出所した後の支援の他に、被疑者の段階からサポートする入口支援が大切です。連携会議は入口支援を中心に開催しているということです。2. 人材確保に向けた方策です。人材確保は福祉業界全体の課題です。協議会活動を通して人材確保に動いている市町があります。具体的には、駅の施設を利用しての人材フェアや、福祉系ではない大学で出前講座を行うなどです。小牧市でも人材フェアを企画していると聞いています。アドバイザー会議で手嶋先生から、実習生やボランティアへの印象を良くする必要があるという助言がありました。学生の実習結果を見ると、実習を通して福祉現場の印象を悪くしてしまう方も少なからずいるということです。手嶋先生からは、実習担当の職員配置を適切に行い、悪い面ばかりが先行せず良い面も把握してもらえるようにしていくと良いのではというアドバイスもありました。最後は、3. 医療的ケアが必要な方への支援です。県の施策でも動きがありそうです。P 3 の資料、医療的ケア児支援ネットワークの事業化概念図(案)はアドバイザー会議で県から配布された資料です。来期の障害福祉計画において、県や圏域、市町で、保健、医療、障がい福祉、保育及び教育等の多職種他分野が連携する協議の場が設置されます。この資料の内容は複雑でまだ理解ができない部分もありますが、今後コーディネーターをどうするかなどの話も出てくると思いますので紹介しました。医療的ケアに関して、県の動きを待たずに積極的に動いている市町もあります。医師会と協力して実態調査を行い具体的な課題を整理した市町もあります。医療的ケア児の支援に関して思うのは、会議の場も必要ですがしっかりとケースに向き合っていくということです。ケースに関わる中で支援チームが形成されその発展系として会議を形成していく方が会議としての目的や機能が達成できると思っています。先駆的に動いている市町の話を知るとそのように類推できます。小牧市においても協議の場を先行するのではなく、医療的ケアが必要な方がどういうことに困っているのかを踏まえた上で会議の場を設置できると良いと思います。

(手嶋会長) ありがとうございます。質問はありますか。2では、国は31

年に研修体系を大きく変えてきますのでそれに向けて人材育成ビジョンを作ると言われています。医療的ケアについては県の自立支援協議会の専門部会に医療的ケアに関する部会を新規で設置するという動きもあります。その辺りのことが分かりましたらまた情報提供していただけたらと思います。続きまして、議事2、相談支援事業の実績報告について、長寿・障がい福祉課からお願いします。

(長寿・障がい福祉課) (P 3 資料のとおり)

小牧市は相談支援事業を4法人5事業所に委託していますが、サンフレンドとサンビレッジは同一法人ですので合算して集計し、便宜上資料ではサンフレンドとしています。平成29年9月から12月までの実績です。相談人数は、障がい児92名、障がい者643名でした。全体的な傾向は今までと変わりませんが、高次脳機能障がいの方からの相談が若干増加している傾向があります。支援方法は、3,084件、月平均では前回の報告から多少減少しています。電話相談が一番多く、二番目は関係機関です。傾向としてはこれまでと同じです。支援内容は、福祉サービスの支援に関するものが一番多く、次いで不安の解消・情緒安定に関する支援となっています。障がいや病状の理解に関する支援、保育・教育についての支援が月平均で見ると前回の報告から若干増えています。P4、それぞれの事業所からの相談の特色や傾向について報告させていただきます。

(ハートランド小牧の杜) (P 4 資料のとおり)

ハートランド小牧の杜では、主に身体障がいの方から多く相談を受けています。

(サンフレンド障がい者生活支援センター) (P 4 資料のとおり)

入所に関する相談は毎年多くあります。強度行動障がいの方の生活の場が少なく、在宅生活に困った場合の対応に苦慮し、家族が疲弊しているというケースは前回の報告同様がありました。障がい児に関する相談が増えています。児童相談センターから、家庭での療育に不安があり一時保護した後、家庭復帰にあたっての居場所として放課後等デイサービスを利用したうえで学校と連携して欲しいというケースが複数ありました。病院関係者から直接相談があり、重身のお子さんでどこにもサービスに繋がっておらず家族が抱えているので関わって欲しいというケースがありました。

(本庄プラザ) (P 4 資料のとおり)

(ふれあい総合相談支援センター) (P 4 資料のとおり)

身体障がい、知的障がい、精神障がい、児童、全ての方の相談を受けています。1歳半から80歳まで幅広く対応しています。65歳になると介護保険に移行しますが、80歳の視覚障がいの方はどのタイミングで介護保険に移行すると良いのか悩んでいます。また、家族全員に金銭管理の支援が必要な家庭があります。日常生活自立支援事業や市長申立てでの成年後見制度の利用に繋ぐ前に、一時的に通帳等を預かる必要があり対応しています。また、気管切開している5歳の児童の母親から、あさひ学園に母子通園したいが車での移動中に呼吸器が外れる心配があり通園できないという相談があり苦慮しています。

(長寿・障がい福祉課)

それぞれの事業所からの報告は以上です。なお、P 4に来年度からの障がい者計画で掲げている相談支援事業に関する指標を記載しています。記載した理由は、市の計画である障がい者計画・障がい福祉計画で示している施策の方向性と、この自立支援協議会で取り組むべき方向性は本来一致すべきものです。現在、来年度からの障がい者計画・障がい福祉計画を策定していますので、来年度からの自立支援協議会の取り組みについては基本的にこの両計画の目指す方向性に沿った形で進めて行きたいと考えます。委員の皆さんにも認識していただきたいと思いこのような資料としました。この後の各連絡会の実績報告の資料でも関連する指標を掲載しています。来年度からこの全体会では、両計画に沿った取り組みの進捗状況を報告しながら、進捗管理を担っていただきたいと考えていますのでよろしくお願いします。P 4に戻ります。相談支援事業の今後の取り組みの方向性としては、相談件数の増加を目指します。相談先を広く周知し、利用者から信頼される相談員になることで相談件数を増やしていきたいと考えています。報告は以上です。

(手嶋会長) ありがとうございます。前は平成29年4月から8月までの報告で今回は9月から12月までの4か月のものです。数値を出しながら具体的な事例も出すことで、数値がどのような事例に関連しているのか分かりやすくまとめていただいていると思います。何かご質問はありますか。

越後谷委員、サンフレンドやふれあい総合相談支援センターから、重身のお子さんの相談が挙がっていますが感じることはありますか。先ほどアドバイザーから、医療的ケアについての報告がありましたが、難病、重身、小児慢性医療という3つの枠がありますが、今回の医療的ケアというのは共通項が多いのではと思います。気管切開のお子さんは全てに関わっているのではと思いますが、それぞれの制度がある中で全部まとめて医療的ケアと捉えていて、その関係性

が見えづらいと思います。小児慢性医療と医療的ケアは切り分け方があるのでしょうか。

(越後谷委員)

切り分け方に関しては分かりませんが、自宅でどのような療法をするのか、喀痰吸引するのかなどということも関係していると思います。

(鵜野委員)

県立の特別支援学校での医療的ケアの取り組みに動きがあります。文科省中心に29年度から専門部会での検討が始まっています。その中では、これまでは学校に対して地域の看護師が参画するという考え方でしたが、学校看護師という立場で専門スタッフの一員として関わるという検討や、保護者と契約する看護師を学校に招き入れる制度の検討や、地域の小中学校での医療的ケアを含めた検討というのが文科省の考え方で、少し間口が広がっていくという動きがあります。それと合わせて、来年度から福祉行政の方でも会議がありますがその繋がりも分からない状況です。元々、重度の医療的ケア児は長く訪問教育で対応していましたが、昨今の考え方の進化からどういうケースであっても学校に来て欲しいという考えに変わっていますので、いろいろな所で動きがでていっていると感じています。

(手嶋会長)

特に計画相談では今後学校の先生との連携の密度が濃くなっていくという方向性を示していただいたと思います。

(川崎委員)

強度行動障がいの方の生活の場がないということは大きな問題になっていると思います。施設はどこもいっぱい、本来なら事業所が受け入れるべきだと思いますが、支援技術や現入所者との兼ね合いなどで受け入れられないということがあります。先月、名古屋市北区で痛ましい事件があり、これは他人ごとではなく何とかしなければと思っています。小牧市でも過去に痛ましい事件があり、二度と同じことが起きないようにしなければと思っています。この自立支援協議会で何か協議できたら良いと思うのと、来年度の報酬改定の中で国が示した短期入所の件で、効率かつ効果的なサービス提供のための報酬の見直しとして、ロングショートについての日にちの制限の見直しをしています。その中に自治体の判断により例外的に日数を認めても良いということも書かれていますので、小牧市でも例外を認めていただいて、痛ましい事件が起きないようにしていた

だきたいと思います。

(手嶋会長)

強度行動障がいのお話から、短期入所の利用についてのご意見をいただきました。

他にご意見などありませんか。国は働き方改革などと言っていますが、現場のスタッフの方は働き過ぎではないかなど、ご意見はありませんか。

(石原委員)

働き方に関してです。精神障がいと発達障がいの雇用に関しては、来年度4月からの法定雇用率へのカウントの仕方が変わります。精神・発達障害者仕事サポーター養成講座を行い、職場への定着率を増やす取り組みをしているそうです。仕事に関しては企業が絡むことですので一相談支援事業所だけが抱え込むと難しいと思います。

(手嶋会長)

一般相談というものは市民や関係機関に見えにくいものですので、具体的な事例を挙げるとどんな取り組みをしているのか分かりやすく、制度の狭間にある方をしっかり把握して制度に繋げているということが見えてきたと思います。議事3、各連絡会の事業報告の説明をお願いします。

(長寿・障がい福祉課)

P5をご覧ください。初めに就労支援連絡会の報告です。この連絡会の目的は、障がい者の就労を支援するためというものです。一般就労への移行支援、事業所での仕事の確保など多方面からの支援を行っています。資料は左から、P(計画)→D(実績)→C(評価)→A(今後の取り組み)として整理しました。今年度の実績について本庄授産所伊藤さんから報告します。

(就労支援連絡会代表)(P5資料のとおり)

①一般企業への就労移行と定着に関しては、小牧と春日井の自立支援協議会と就業・生活支援センターようわが連携し企業見学会を実施しました。企業での障がい者雇用の状況や事業所での取り組みを直接見学でき、お互い良い刺激となりました。また連絡会内でアンケートを取り、事業所間での支援方法を共有を進めてきました。②企業への就労移行や受注拡大のための障害者雇用推進セミナーへは、今年度は2月23日(金)に参加します。昨年度はこの機会を活用して、特例子会社の求人情報説明会を開催し4名の方が就職でき

ました。事業所だけでなく企業との連携の機会になっていると思います。今後は小牧市行政に向けての雇用を働きかけていきたいと思っています。③「働くガイドブック」は小牧市と小牧市社会福祉協議会のホームページに掲載し、商工会議所のメールマガジンで情報発信することができました。このガイドブックは企業に各事業所を知ってもらう他、相談支援の場面でも活用しています。内容の更新作業の中で分かったことは、就労継続支援A型事業所の経営状況が厳しくなっている中、小牧市では廃業した事業所はありませんでした。これらの事業を継続することで企業との繋がりを続けて行かれると思いますので、今後も中身を充実させていきたいと思っています。

(長寿・障がい福祉課)

就労関連の指標について、来年度以降の数値目標です。第5期小牧市障がい福祉計画において、一般就労への移行者数、就労支援事業所の利用者数に関する数値目標を掲げています。来年度以降、この数値目標が達成できるような取り組みをこの連絡会で進めて行きたいと考えています。また、就労支援サービスの見込み量を掲載していますが、サービスの利用状況として一定の目安になりますので参考までに掲載しています。来年度以降、サービスの利用状況についてもこの場で実績報告したいと考えています。

続きまして、P6、日中活動系連絡会の報告です。この連絡会の目的は、障がい者にとって安心できる居場所を確保するということです。働くことが難しくても自宅に籠ることなく社会との接点を持つためには、安心できる居場所を確保することが重要と考えます。今年度の実績について生活介護ぽぽら秋山さんから報告します。

(日中活動系連絡会代表) (P6資料のとおり)

1月19日に就労支援連絡会と合同で、特別支援学校との進路情報交換会を行いました。送迎のない事業所には卒業までに自力で通う力を付けるなど、さまざまな意見がありましたが、中でも、卒業生が利用したい事業所には行けず、結局空きがある事業所に行かざるを得ないという意見もありました。小牧市で事業所を立ち上げやすい環境を作っていかなければ解決に結びつかないと感じます。①9月8日に事業所見学会を実施しました。当初は前年度作成した災害時における事業所での備蓄品リスト表を活用できるものにするため企画しましたが、普段から交流を持てる関係を構築できつつあると感じました。職員同士の不安や課題を共有できるようになれば小牧市の福祉はもっと良くなると感じました。②勉強会についてです。今後の障がい福祉や介護保険の制度変更も踏まえて学ぶ必要があり、民生委員、警察や消防等、市民全体にどのように障が

い者の認知を進めて行くかということも課題になると思います。③事業所職員の人材不足の解消についてです。人材不足についての現状と就職フェア出展希望について、障がい福祉サービスと介護保険サービス事業所にアンケートを行い、40%強の回答がありました。この大半は人材不足のため出展希望でした。出展は市内の事業所に限定し、5月31日に小牧市公民館で就職フェアを開催することになりました。自立支援協議会の主催で行うことは初めてなので手探りですが、開催の結果見えてくる問題点を克服し、今後の開催の時には来場者数が増えるように取り組むことで今後の人材不足解消に繋がると思います。

(長寿・障がい福祉課)

この連絡会の指標ですが、計画上具体的な数値目標は謳っておりませんが、両計画共に、病院や施設からの地域移行という目標設定があります。地域での受け皿が必要ですのでこのような観点からも計画に沿った取り組みを進めていきたいと考えています。次はこども連絡会ですP7をご覧ください。こども連絡会の目的は、障がい児の療育を支援するというものです。連絡会の特徴は参加者の多様性です。放課後等デイサービスの他、子育てに関係のある行政機関、保育園や学校関係者、また保護者会の代表などで、非常に活発な話し合いが行われています。今年度の実績についてあさひ学園御手洗さんから報告します。

(こども連絡会代表)

こども連絡会では、ライフステージにおける切れ目のない支援のための各分野の連携を目指して取り組みを行ってきました。①成長記録ノートの活用は小牧市独自の取り組みで、いろいろな支援機関に繋がっていくために活用するため取り組んでいます。保育園や事業所には認識が進んできましたが、今後は学校にも働きかけをしていきたいと考えています。今年度は特別支援コーディネーターの方にも連絡会に参加していただきましたので、今後は学校関係者に浸透するよう取り組んでいきたいと思います。②発達障がいの理解促進のため、今年度2回、パパママサポートあおぞらが行っている発達障がいの疑似体験を行いました。連絡会の構成員以外にも、児童館や児童クラブにも参加していただきました。今後もさまざまな機関で繋がっていかれるような取り組みを必要に応じて行っていきたいと思います。また、3月8日に越後谷先生に講師をお願いし、発達障がいの理解や医療機関から福祉機関に伝えたいことをテーマに研修を行います。医療と福祉が繋がっていくことが大切だと思います。③就労支援事業所との情報交換会を開催し、就労系サービスと事業所の紹介をパネルディスカッション形式で行い大変好評でした。大人の通う事業所から子どもの時に身に付けておくと良い力についてお話いただき、気づきがありました。切れ

目のない支援のために必要な繋がりですので今後も必要に応じて開催したいと思います。④昨年度、支援者向けに行った性に関する研修会を保護者向けに行いました。参加者からは切実な課題を提示していただきました。今後も学校関係者とも連携しより良い研修を行っていきたいと思います。

(長寿・障がい福祉課)

指標についてですが、この連絡会も具体的な指標はありませんので資料への記載もありませんが、計画には分野別計画として療育支援を掲げていますので、連絡会の強みである参加者の多様性を生かして計画の推進に寄与するような取り組みを行いたいと思います。最後はP 8、相談支援事業所連絡会の報告です。この連絡会の目的は、障がい者に信頼される相談員になるということです。相談支援は障がい者支援の最も基本的なことであり、この地域の相談支援体制を充実させる取り組みを行って来ました。サンビレッジ障害者支援センター篠塚さんより報告します。

(相談支援事業所代表)

信頼される相談員になることを目標に、質の向上を目指して取り組んで来ました。前期は半田市で行っている事例検討会を学びに行き、小牧市でも事例検討会を2回行いました。一人の相談員が抱えている小牧市の困難ケースを、みんなによってたかってその人の幸せを考えていくというスタンスで意見を出し合うという形で行っています。一人では支援の方向性が見出せなくても様々な意見が得られることで次の一手を見出すことができる検討会です。事例提供者もご本人をより深める機会となりますし、検討会の進行を相談員が交代で経験することでファシリテーターとしてスーパーバイズできる力を培うという目的があります。今後も回数を重ね定着させ、来年度以降は相談員以外の関係機関の方にも参加していただき、多様な意見が得られる場にしていきたいと思っています。相談員の知識向上のための勉強会を行いました。平成30年度の制度改正についての基本的な知識を押さえる勉強会を開催しました。小牧市の課題の吸い上げも重要な役割と思っています。その道筋作りのために、事例検討会などで出た課題を集積、整理して相談員同士で何ができるのかということ話し合い、解決に繋がる取り組みをして行きたいと思います。

(長寿・障がい福祉課)

指標ですが、計画ではサービス支給決定者数の増加を挙げています。より多くの計画作成に携わっていかれるよう一人一人の相談スキルや質の向上に取り組んで行きたいと思います。資料の訂正があります。指標の中、障害者支援利用

計画とありますが、障害児支援利用計画です。訂正をお願いします。以上が今年度の連絡会の実績です。委員のみなさまには、それぞれ専門のお立場から来年度以降の連絡会の取り組みについてご意見をいただければと思います。

(手嶋会長)

それぞれの連絡会からの実績報告でした。ご質問、ご意見をお願いします。

(川崎委員)

日中活動系連絡会で計画している、5月31日(木)の就職フェアについてですが、休日でなく平日に開催しても大丈夫でしょうか。

(長寿・障がい福祉課)

開催時期は検討した結果です。事業所からの事前アンケートの結果、採用したい人材は、新卒学生やパート、アルバイトなど多種多様な形態でした。どれかに焦点をあてると難しく、今回初めての開催ですので、まずは平日午後に開催して失敗であれば来年度の教訓にしたいと考えています。昼過ぎは主婦層、夕方は学生の来場を予定し初回はこの形で行いますのでよろしくをお願いします。

(手嶋会長)

相談支援事業所連絡会の相談員とはどういう人のことをいいますか。サービス管理責任者などもいますが。

(長寿・障がい福祉課)

相談支援専門員のことです。障がい福祉サービスを利用するためのサービス等利用計画を作成する人です。連絡会に参加している事業所は全てサービス等利用計画を作成する事業所ですので、相談員とはこのサービス等利用計画を作成する人を指します。

(手嶋会長)

評価に書かれている、相談員以外の関係者の参加とは、例えば強度行動障がいの方の対応に困っているとなればサービス管理責任者が入りながら一緒に検討していきたいと読み取れば良いでしょうか。

(長寿・障がい福祉課)

そうです。

(手嶋会長)

こども連絡会について、小牧市では継続的に成長記録ノートを丁寧に活用していると思いますが、第5期もしくは第4期の障がい者計画の中で活用を促すような紐付けというのが私には見出せませんでした。今回このような重要な案件を障がい児の計画の中で反映させたいという思いはありますか。

(長寿・障がい福祉課)

こども連絡会で取り組んでいる成長記録ノートの活用は、次期計画では重点施策ではありませんが、第3次小牧市障がい者計画のP41に、ライフステージごとに切れ目のない支援ができるよう成長記録ノートの活用を啓発しますと記載しています。成長記録ノートはこの連絡会を通じて保育園や事業所にはかなり浸透しています。今後は学校の認知度を上げるために取り組んでいきたいと考えております。

(手嶋会長)

ありがとうございます。次年度からのことも考えて、今回の報告では参考として、計画のどこに紐付けされるかということも示していただきながら報告を工夫していただいております。具体的には地域生活支援事業の必須事業や任意事業にもたくさんの項目があって、紐付けしようと思えばあてはまる場所があると思いますので、次年度の連絡会の計画を作る時に、自分達のやっていることがこの計画のどこに反映しているか意識すると更に良いものになると思います。特に他に意見がないようですので、議事3を終わります。

(事務局)

P9をご覧ください。その他の取り組みです。連絡会の他、在宅サービスの連携にも取り組んでいます。昨年度から訪問系サービスの居宅介護、訪問看護、訪問リハビリ事業所との意見交換会を行っています。また、障がい福祉サービス事業所一覧の情報更新と冊子の発行を行っていますので報告します。

(石原委員)

とても手厚い時代になったと思います。私は親同士の繋がりがないと情報が得られない時代を過ごしてきました。親御さんには、サービスの利用だけでなく障がい児の親としての勉強もして欲しいと思います。将来、親と子だけになった時に痛ましい事件が起きやすいです。親同士のお茶飲みが救いになる時もあります。子どもがサービスを受けている時に親としての自覚を持って欲しい。育成会の会員は年々減っていますが法人と繋がっている市町村では増えていま

す。当事者の親としては、高齢になっても大変だったねとお茶が飲める関係を作っていかれたらと思います。親は孤立しやすいため目を向けて欲しいと思います。

(手嶋会長)

ご経験を踏まえて、サービスと仕組みだけでは救われないという不安を切実にお話いただけましたと思います。そのほか、全体を通してこの2年の任期を振り返って一言ずついただけましたと思います。

(谷委員)

特にありません。

(吉田委員)

民生委員という立場で出席しています。民生委員連絡協議会にしても障がい者に関して希薄な所があります。家におじゃましても良いのか遠慮がちになっています。地域にこういう方がいるということは把握するようにしています。また、災害時要援護者に関する情報には目を通してというのが現状です。

(清水委員)

2年間を振り返りながら、社会が複雑化している中で求められる部分はその時代時代に合わせて行くことが難しくなっていると感じています。自立支援協議会に参加しながら、福祉サービス事業所だけでなく社会事情も含めながら対応していくことが課題として挙がってくると思います。

(川崎委員)

先程、強度行動障がいの方の生活の場がないことと短期入所の話をしました。これは繋がっている話で、生活の場がないので短期入所の利用が必要なのに利用日数が減ると大変なことになるということを追加します。最近発達障がいの方が増えており、15人に一人と言われていています。発達障がいについての勉強が必要だと思います。子どもの時にしっかり行動のコントロールをすれば将来本人が混乱しなくてもすむのではと思うので、今後もみなさんに相談していきたいと思います。

(綱川アドバイザー)

2年間ありがとうございました。2年を振り返ると、各連絡会の活動が充実してきたと思います。今後ますます充実した活動をしていただきたいと思います。

その上で、各連絡会の報告の中で一部の連絡会については対象となる指標がないというお話がありました。こども連絡会ですと、第3次障害者計画案のP42にはサービス事業所や関係機関と学校との連携を図りますと書かれています。今回は数字として分かりやすいものを載せたと思いますが、量的な評価の他にも質的な評価の実績として、自立支援協議会や障がい者計画、障がい福祉計画の取り組みの中でも評価して良いと思います。よりPDCAサイクルがしっかりしたものになると思いました。

(鵜野委員)

2点あります。こども連絡会は活発に進んでいると聞いています。私も立ち上げの初回に出席しました。非常に多くの話題が出る反面、会の運営に関しては取りまとめする方のリーダーシップやマネジメント力が問われると思います。まとめる方だけに頼るのではなくいろいろなところと連携して出た意見についての行動をして欲しいと思います。高等部に知的障がいの生徒が在籍していますが、瀬戸に新しく特別支援学校が増えるため、今後は知的障がいの生徒の募集は行いません。身体障がいと知的障がいの生徒と一緒に学べる環境は全国的にも珍しくとても良いことだと思います。

(角田委員)

ふれあい総合相談支援センターの相談の中で精神病院に入院している知的障がい者の退院先に苦慮しているというお話がありました。本来なら精神病院へ入院することは適切ではないと思いますが、重度の知的障がい者の行先がないという現状があります。

(越後谷委員)

今後学校との連携を深めていきたいと思います。また、今関わっているお子さんが将来困らないように治療していきたいと思ひますし、親御さんの輪というものも考えて行きたいと思ひます。

(手嶋会長)

みなさん、御協力いただきありがとうございました。それでは本日の議事は終了とさせていただきます。

(事務局)

今回は、平成30年5月14日(月)午後2時から、ふれあいセンターにて開催します。ありがとうございました。